

I T A アグラ報告 WG 1 4 機械化掘削

(株)大林組 狭間 裕志

(部会長：L. Babendererde<ドイツ>、副部会長：F. Amberg<スイス>、チュータ：福本勝司<日本>)

9 か国から 11 名が参加した。

部会長から 3 グループの小委員会における、昨年の活動成果が報告された。

- “リスクマネジメントと保険”を検討した小委員会では、日本トンネル協会から提出されたリスク・レジスターを、サンプルとして取り上げ検討した。この作業内容は後で本会議のメンバーへ配布される。
- “若年技術者と作業員を対象としたトレーニングコースの実施とその普及促進”について、携わった小委員会メンバーからの報告は特になかった。
- “山岳工法と比較した機械化掘削工法の長所”について検討を行った小委員会からの結果報告は、既に回覧されているとおりである。本会議中に Arnulf Hansen によって提出された、硬岩における機械化掘削の長所、及び短所に関するリストについては後で回覧される。

ここで小委員会活動についての議題は打切りとし、本委員会の議題へと移ることに全会一致で同意。

1. WG へのサポート

- 博士課程の学生を WG14 のアシスタントとして任命するため、今年の夏、スイスのローザンヌ工科大学に連絡したことを、部会長が説明した。
- ローザンヌ工科大学の Jian Zhao 教授は、学生が WG14 へ関わることについて同意した。その課題や目的については WG14 メンバーにて決定し、その内容は学術的なサポート、たとえば調査といったアシスト的な作業に限られるということを確認した。
- 連絡手段とウェブサイトでの作業内容が明確になり次第、アニメータが今年の終り頃、学生に連絡を取ることとする。

2. Challenging Project (注目すべきプロジェクト)のリスト

- このリストは昨年から変更されていない。できるだけ速やかに、このリストがウェブサイトへ掲載できるよう、部会長は国際トンネル協会組織内の書類をチェックする。
- すでに 8 年以上経過したプロジェクトは、このリストから削除する。トンネル工事の技術は、この 8 年間に確実に進歩しており、したがって古いプロジェクトの実績は、最先端技術開発の参考にはならない、ということが全員一致で確認された。
- このリストに新しいプロジェクトを追加するため、エクセルにて作成したリストを国際トンネル協会メンバー各国代表へ再度送付することとする。

3. WGの今後の活動

- 実際に作業を行う者の人数が限られているということを考慮すれば、さらに課題を絞り込み、課題の数を減らさなければならないのが現況であるということが、各グループにより確認された。
- 特に、ブタペストにて開催される次回の総会まで、残り7ヶ月間しかないということを確認しなければならない。
- 今後、WG14は課題として、機械化トンネル施工の発展促進と、情報プラットフォームの構築に焦点を当てる。
- 技術的な見地に立った詳細な検討は必要ではあるが、その検討のレベルの高さよりも、むしろ検討結果を早く出すということを重要視する事とする。
- ブタペストで開催される総会までの検討課題は下記に限定する。
 - (1) 機械化トンネル施工の長所、短所リストの作成
 - (2) 注目すべきプロジェクトのリストの更新
 - (3) ウェブサイトの活性化
- 今後の作業を急ピッチにて行うため、書類の回覧及びコメントには期日を設定し、作業を進めることとする。

以上